宮城大学 後援会報 Vol.42

発　行
平成26年1月31日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL 022（377）8381

編　集
宮城大学後援会事務局

後援会主催事業 白幡洋一氏講演会

スポーツの持つ底力

後援会では、大和キャンパス大学祭の日程に合わせ、10月14日に「講演会」を開催しました。

この「講演会」は、各界で活躍する著名な方をお招きし、後援会の会員や大学近隣の住民の皆様に向けて毎年開催しているものです。

今回は、地元仙台市で地域社会と一体となった活動を展開しているベガルタ仙台の白幡洋一社長をお招きし、「『する・観る・支える、そして語る』～スポーツは地域を支える起爆剤？～」と題して、ご講演いただきました。当日は、40代50代の男性を中心に、約250人の皆様に参加いただきました。

講演する白幡氏＝10月14日、講堂

講演では、白幡洋一氏が社長に就任して以後のベガルタ仙台の活動や、東日本大震災を経て、震災からの復旧復興に対するベガルタ仙台の役割、スポーツの持つ底力などについて、時間一杯熱く語っていただきました。利益の追求や勝敗・順位だけではないソーシャルビジネスとしてのプロスポーツ経営に関する白幡社長のご苦労の一端が窺えたほか、地域スポーツに懸ける情熱も感じられたところです。

講演に聞き入る聴衆

また、育成に関連したお話では、五つの育（知育・徳育・食育・体育・感育）の役割や、親が子供に残せる三つの財産（母国語以外に二つの言語の習得、何か一つのスポーツに卓越する、何か一つの楽器をマスターする）についてもお話があり、子育て終盤を迎えた私ども後援会会員にとって、これまでの子供との接し方について考えさせられる場面もありました。

講演の最後に、「変革・革新の先頭に立ち、県立大卒として地域発展のメインプレーヤーになって」と、本学への力強いエールを白幡社長からいただきました。

（後援会会計書記　八島 英明）

宮城大学グローバリーゼーションの取り組み

グローバル人材と「人間力」

昨年12月15日、フィラデルフィアを本部とするテンプル大学日本校と学生や教職員の交流を中心とする協定を締結し、記念シンポジウムを開催、ストロナク学長の基調講演のほか秋田の国際教養大学鈴木学長、福島の会津大学角山学長を迎え、本学西垣学長と高山共通教育センター長を加えたパネルディスカッションを行いました。歴史と実績ある米国の大学、世界に直結する人材育成で国内外から評価の高い2つの大学、そしてグローバル教育を推進する本学の学長が一堂に会し、自ら考え行動する「人間力」の基盤となる教養教育について熱い議論が交わされ、この冬初めての雪景色を解かす勢いでした。

本学は現在、道州制を視野に学生のグローバル人材育成に注力しています。経済成長著しいベトナムにおける研修や企業インターンシップ、協定校のあるフィンランドや米国、豪州への留学、サンフランシスコでのJPOPサミットフェスティバルへの出展とUCLA訪問などのプロジェクトを積極的に展開し、平成24年度からの1年半で200名以上が参加しています。さらに、難関のジェトロ（日本貿易振興機構）の国際即戦力育成インターンシップにも一名が合格しました。このためクォーター（4学期）制の導入や単位認定、企業の協力金や関係省庁の助成金を獲得するなど留学し易い環境整備に努めています。本学が目指すグローバル人材育成は国内外のどこでもタフに人生を切り拓いていける「人間力」の育成にほかなりません。指示待ち・受身の学生が多い昨今、親元を離れた異国での思うに任せぬ体験は不測の事態を乗り切る人間力を鍛錬する絶好の場になります。ぜひ大切なわが子の背中を押していただき、強くしなやかな宮城大生を共に創っていければと思います。

（参事兼学務課長　成田美子）

記事一覧
●2面…後援会役員と学生代表との意見交換会、「絆」
●3面…コラム、3年生就職活動への第一歩「事業構想・食産業学部合同企業説明会開く」
●4面・5面…MYU FES 2013「太白キャンパス」、「大和キャンパス」、学生会執行部主催キャンパス間交流「芋煮」
●6面…TFTMYUの活動、大和学生会ガーデンキャンパスの活動
●7面…OSPの活動、インターンシップ報告会
●8面…「教員からの一言」、保健室、後援会総会、後援会終身会員制度案内

後援会役員・学生代表 意見交換会

学生の声聞き 支援の充実化図る

後援会では、学生会活動やサークル活動、大学祭など学生の活動に対して助成し支援しています。意見交換会は、学生の代表から活動状況の報告を受けるほか、後援会の助成等について役員と学生が直接意見を交わすことによって、今後の支援内容の充実を図ることを目的に、大和・太白のそれぞれのキャンパスで毎年開催しているものです。

大和キャンパスは、11月6日に行い、学生代表12人が出席しました。サークル連絡会ではサークル予算の適正な執行に取り組んでいることや、大学祭実行委員会からは、大学祭の広報を兼ねて地域のお祭りの準備を手伝っていることなどが報告されました。また、大学祭当日に来場者用の駐車場が不足したことに関し、出席した役員から大学近隣の無料駐車場の活用についても助言をいただきました。

太白キャンパスは、11月14日に行い、学生代表9人が出席しました。太白キャンパスにおいても大学祭運営について意見が集中し、協賛金を依頼する企業には積極的に働きかける必要があることや大学祭終了後の対応も重要であることなど、役員から有益なアドバイスをいただきました。

今年の意見交換会では、このほかにも両キャンパスの学生の積極的な交流を求める意見や、大和と太白で助成金を一本化し効率的な執行を工夫することも必要ではないかとの提案が役員から出され、今後の学生会等の活動と後援会の支援について意見が交わされました。

後援会では、今回の意見交換会にとどまらず、様々な機会をとらえて学生の声を聞き、今後の支援内容に反映させていきたいと考えています。

（会計書記　八島英明）

大和キャンパス　11月6日、大会議室

太白キャンパス　11月14日、会議室

絆

在校生、卒業生、保護者、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。11回目にご登場いただくのは、現在、本学大学院で学ぶ、相田茉美さんです。相田さんは宮城大事業構想学部デザイン情報学科から事業構想学研究科へ進み、この春、博士前期課程の修了を迎えます。今、学びの成果をどのように実感しているのでしょうか。宮城大での6年間を振り返ってもらいました。

「事業構想学部」だったからこその6年間

事業構想学研究科博士前期課程2年　相田 茉美

学部時代のデザイン情報学科での4年間、現在所属するビジネスプランニング領域での2年間と、宮城大学に入学し6年間が経過しようとしています。

学部時代には空間デザインコースを専攻し、建築設計に関する知識や技術はもちろん、物事の考え方や伝え方の訓練など「つくりあげる」ことの基礎となる部分をみっちり教えていただきました。その中で「形づくる」ことの重要さを感じるとともに、目には見えない運営や経済などの「仕組み」へも関心を持つようになり、よりハードもソフトも一体的につくることのできるような勉強をしたいと思うようになりました。そこで進学先として様々な大学院を調べた結果、最終的に建築やデザインから離れることなくソフト面の知識を学べるのではないかと考え、宮城大学のビジネスプランニング領域、つまり学科で考えると計画学科の「まちづくり」を専門分野とする研究室を受験することを決めました。

大学院では実際に地域へ通いまちづくり支援活動をする機会に恵まれ、地域の皆さん、先生や仲間たちと一緒に地域が元気になる仕組みづくりを試行錯誤しながら行ってきました。この2年間、計画学科で学んだことは数多くありますが、その学びと空間デザインコースで学んだ知識や技術は常に密接に結びついていることに気付かされ、それらの重要性を改めて実感しています。

「事業構想学部」だったからこその6年間の経験から、私の原点として将来大切にしたい価値観と、何より多くの恩師や仲間との出会いを得ることができました。来春からは、東京のランドスケープ設計事務所への就職が決まっています。宮城大学での学びと出会いに感謝しつつ、社会に貢献できるようますます精進していきたいです。

一緒に活動している福島県石川町野木沢地区の皆さん・宮城大学まちづくり研究室の皆さん（相田さん、2列右から2人目）＝公益社団法人日本造園学会関東支部第8回学生デザインワークショップ「サマースタジオ2012」地元報告会にて

コラム　親と子どもと学校と ㊦

学校参加について

看護学部准教授　山岸 利次

前回、一人の子どもの親として学校との関わりについて書かせていただきましたが、今回は教育学を専攻する者としてタイトルのことについて書かせていただきます。

2000年以降、親（や住民）と学校の関係は劇的に変化しました。学校経営における保護者・住民の声を反映させるための学校評議員制度は確実に定着していますし、一部の学校で導入されている学校運営協議会制度（いわゆる「コミュニティ・スクール」）においては、保護者・住民を構成員とする学校運営協議会には人事権を含む広範な権限が与えられています。また、こうした学校経営とは別に、総合学習における講師や学校ボランティアの一員として日常的な教育活動に多くの保護者・住民がかかわっています。

こうした「学校参加」が制度化された背景には、親（・住民）が学校教育のステークホルダーであるということが認識されたということがあります。学校にいる間はすべて学校任せというのは教育権者である親・保護者のあるべき姿ではありません。子どもの教育についての権利と義務を持つ親は当然学校教育のあり方を含めて関心を持つのであり、その意味で学校の利害関係者なのです。学校経営に親の参加が保障されるというのはその意味では至極当然のことなのです。付言すれば、住民にとっても地域の子どもがどのように成長していくかということは、たとえ自分の子どもでなかったとしても非常に重要な問題ですので、同様の論理から地域住民の学校参加も要請されるのです。

翻って、貴後援会の活動も、上述の意味での「学校参加」の一形態と言えるでしょう。私たち教員にとって皆さまは本学教育のステークホルダーです。ぜひ、ともに良い大学をつくっていきましょう。

（やまぎしとしつぐ）
1973年生まれ。埼玉県出身。東京大学教育学部卒業。同大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学（教育学修士）。2009年4月、宮城大学看護学部准教授に着任、現在に至る。専門は西洋教育史・教育法学。「歴史とは歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話である」（E・H・カー）をモットーに、歴史的視点から現代の教育問題について考えることを生業としている。

3年生就職活動への第一歩
事業構想・食産業学部合同企業説明会開く

県内・首都圏から86企業・団体が参加

12月4日・6日の二日にわたり、大和キャンパスにおいて事業構想学部、食産業学部合同の企業説明会を開催しました。

この説明会は、学生が今後のキャリアプランをデザインできるよう、企業等から説明を受け、その企業はもとよりその業種・業界、社会の動き等に関する様々な知識を得るとともに、自己意識の啓発向上に役立てることを目的として実施しています。

宮城県内や首都圏等から、4日は42社、6日は44社の企業・団体に参加していただきました。今年はキャリア開発センターの「企業説明会の回り方セミナー」を開催し、学生がより意欲的に企業説明会に参加できるよう支援した結果、両学部の3年生を中心に延べ507人の参加となりました。

学生は時間の許す限り様々な企業のブースで熱心に説明を聞き、積極的に質問をしていました。

また、参加した企業・団体からは、熱心で積極的かつ、自分の考えを持っている学生が多いと非常に高い評価をいただき、本学に寄せる期待の高さが伺えました。

12月から本格的に就職活動が開始となり、学生にとっては忙しい時期が続きますが、学生一人ひとりの夢を実現する大学を目指し、教職員一丸となり全力でサポートしてまいります。

皆さま方の引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

（学務課　萩野俊輔）

FES 13

太白キャンパス ー 10月5・6日

満員御礼、ライブ 笑いの渦

しょっくんとみゅーくんのツーショット

こんにちは、大学祭実行委員長の佐々木雄弥です。今年の大学祭のテーマは「EATRESURE」をテーマに開催しました。本学生だけでなく地域の方々にもたくさんご来場をいただき、無事成功させることができました。

毎年恒例のお笑いライブでは、ゲストに山本高広さんに来ていただきました。会場は満員御礼、終始笑いの渦に包まれ大盛況でした。

体育館では「謎解きアトラクションゲーム　トレジャン」やミスコン、カラオケ大会、伝統の餅まきなどのイベントを行いました。どのイベントもたくさんの方々に参加いただき大いに盛り上がりました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、実行委員や音響担当の方のスムーズな対応で、予定通り進行することができました。

来年は、今年の反省を生かしてより盛り上がる大学祭になればと願っています。

当日来場いただいた皆様、大学祭開催に協賛していただいた企業、支援いただいた後援会、協力いただいた事務部の皆様、先輩方、本当にありがとうございました。

（太白キャンパス大学祭実行委員長
ファームビジネス学科2年　佐々木雄弥）

太白のマスコット“しょっくん”

伝統のもちまき

地域の人のお目当ての野菜販売には、いつも長い列が

人気のパペットショー

“静”と“動”多彩な行事

学生会執行部主催キャンパス間交流

2年目は食材の宝庫 太白で”芋煮“

宮城大学生会執行部では、大和・太白キャンパス間のより深い交流を目的として、昨年度からキャンパス間交流会を開催しています。

今年度は昨年11月4日、太白キャンパスで芋煮会を開きました。食産業学部の先生方に協力いただき、新鮮な野菜や肉、調味料を揃えることができたため、参加者全員でとてもおいしい芋煮を食べることができました。

その後、両キャンパスで持ち寄ったミニゲームを行いました。自己紹介すごろくで交流を深めたり、太白キャンパスを巡り写真を撮るなど、参加した学生は大いに楽しんでいました。

交流会を通して、両キャンパスの学生の間に新たなつながりが生まれました。お互いそれぞれの得意分野を生かして、大学祭など様々な場面で協力し合い、発展していくことができればと思います。

（大和学生会代表　デザイン情報学科2年　阿部仁美）

参加者全員で調理＝11月4日、太白キャンパス調理自習室

テーマは「Travel」、4千人近い旅人たちで賑わう

フィナーレを飾った花火

"娘すずめ"の舞

装飾された中央階段が祭りの雰囲気を盛り上げる

露店もいろいろ

B級グルメ石巻焼そばも登場

大勢の人で賑わった池前テラス

大和のマスコット"みゅーくん"

2013年度大学祭実行委員会代表の佐々木翼です。今年の大学祭はテーマを「Travel」とし、来ていただいたお客様に非日常的な空間と時間を提供し、旅行に来たような楽しい時間を過ごして欲しい、という思いで活動をしました。

その結果、一日目は約1,400人、二日目は約2,400人で合わせて約3,800人のお客様にご来場いただきました。

今年は、露店にゲストで石巻焼きそばさんと気仙沼ホルモンさんをお招きしたほか、キャンパス間交流として太白から豚串が出展され、お客様に喜んでいただき大変賑わいました。

また、地域交流として地元の小学校や中学校、町内会などの行事へお手伝い方々参加し、地域との交流を深めるなど、学祭以外での活動も充実させました。

来年はさらに充実した活動となるようこの経験を後輩に託したいと思います。ありがとうございました。

（大和キャンパス大学祭実行委員長
事業計画学科2年　佐々木　翼）

はじめまして。2014年度代表となりました桂嶋健太郎です。新体制となりまだまだ未熟な私たちですが、次年度に向けて本格的に活動を始めています。

先輩方が作り上げてきた大学祭を引き継ぎ、さらにそれを超える素晴らしいものを作り上げたいと考えております。

これからよろしくお願いします。

（新委員長　デザイン情報学科1年
桂嶋 健太郎）

新代表の阿部さん《 大和 》

この一年間で、執行部は学生にとってより身近な存在になりたいと考えています。また、これまで以上にWEBを利用した情報発信に努めていきます。

このような立場となるのは今までにない経験で、失敗や戸惑いばかりですが、宮城大をよりよいものにできるよう、また、社会に出るためのいい経験となるよう、精いっぱい頑張りたいと思います。

新代表の滑川さん《 太白 》

和やかな雰囲気の食事会
＝太白キャンパスカフェテラス

（太白学生会代表　ファームビジネス学科2年　滑川桃子）

宮城大生がそれぞれの思いで立ち会上げた学生団体「TFTMYU」と「OSP」、ともに社会貢献をめざす2つの団体の活動を紹介します。

Table For Two Miyagi University（TFTMYU）

食の不均衡の解決 世界に向けて発信

私たち『Table For Two Miyagi University（TFTMYU）』は、「世界の食の不均衡の解決」を目的としてTABLE FOR TWOプログラムの普及活動を行っています。『TABLE FOR TWO（TFT）』とは、発展途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む、社会貢献運動です。日本で発足し、多くの企業・団体がTFTプログラムに参加しています。TFTMYUは、「食」に関する様々なアクションを起こすことで、東北全体にTFTの活動を広めることを目指しています。

今年度は活動2年目を迎え、活動の幅を広げてきました。

昨年度は実行できなかった、宮城大学両キャンパス・東北大学の学祭での出店が実現し、アフリカで給食として提供されている「ポショ」をイメージしたオリジナルの商品を販売。3回の出店で計800食以上を販売しました。

9月には、「インドレストランガネーシャ」、10月からは「ヘルシーキッチン ここみ亭」と、商品を共同開発し、実際に販売されました。メニューの考案には、太白キャンパスを中心としたメンバーが携わっています。

このような学祭での出店や共同開発メニューの販売時には、TFTプログラムを導入し、アフリカの子どもたちに給食を寄付しています。

昨年度の団体発足から今までの活動で私たちが寄付してきた給食は、累計で3000食以上になりました。宮城大学を始め、他大学の学生や社会人の方も、私たちの活動に興味を持ち、賛同してくれました。今後は更に広い範囲で、より質の高い活動ができるよう、頑張っていきます！

（TFTMYU代表
事業計画学科3年　菊地　友）

TFTMYUのみなさん

考案メニューのチラシを手にするメンバー

大和学生会ガーデンキャンパスの活動

冬枯れの季節を工夫して

こんにちは。ガーデンキャンパス代表、看護学科2年の石川瑶子です。

キャンパスの環境美化に取り組むガーデンキャンパスは、私が代表となった年（平成24年）に任意の学生団体から学生会に組織される委員会になりました。現在メンバーは1、2年生合わせて7人と少人数ですが、講義の空きコマを利用しながら、花壇の花植えなど楽しく活動しています。その中で今回は、冬期の活動について紹介します。

去年の冬、大学の敷地内にあるモニュメントがクリスマスツリーのように装飾されたのをご覧になった方も多いのではないでしょうか。

あの飾りつけは、実はガーデンキャンパスが昨年度から始めたものです。寒くなり、花植えを行えない時期でも大学が華やかになるようにと始めたのですが、皆さんに大変好評だったため、今年度も行うことにしました。1年生のメンバーも加わり、昨年度よりも多くの箇所に装飾を行い、学内外の方々に楽しんでいただけたのではないかと思います。

今年度で私は引退しますが、ぜひ次の冬も後輩たちに活動を受け継いでいってほしいと思います。

（大和ガーデンキャンパス代表
看護学科2年　石川瑶子）

メンバーで学内のオブジェをクリスマスツリーに

One Second Project（OSP）

震災復興 ― 私たちができる支援を

私たち学生団体One Second Project（OSP）は、東日本大震災の復興のために何かしたいと思った学生たちが立ち上げた団体です。支援の形は時間の経過と共に変わってきていますが、その中で自分たちが出来ることを見つけ、活動しています。今は主に情報発信の活動に力を入れています。復興のために継続的に支援している団体や企業、そして地域の情報を発信しています。

10月に岩手県立大学で開催された「全国公立大学学生大会」に宮城大学代表として参加し、その活動を紹介する機会がありました。この会は、①地域貢献活動・地域に関する研究活動、②地域防災活動、③被災地支援活動の3つの分野で活動を行っている公立大学の学生が全国から集まり、それぞれの活動について発表を行うものです。

OSP宮城大チームの皆さん
10月、岩手県立大学

私たちは宮城大学代表として本学及びOSPの復興への取り組みについてポスター発表を行いました。宮城大学のブースには、他大学の学長や学生など多くの方々が訪れ、意見や質問などをいただきました。また「学生が考える地域の未来」というテーマで、新たなプロジェクトを話し合い、アクションプランを発表しました。

大会への参加は、他大学の学生と交流し、さまざまな活動の様子を知ることができ、今後OSPの活動を進めていく上で大変有益なものとなりました。

これからも活動内容は変化していくとは思いますが、私たちは継続的に被災地の力になる活動を続けていきます。

（OSP代表
事業計画学科2年　水野 佑香）

ボードには学生の意見がびっしり

インターンシップ報告会を開催

太白　食産業学部は3年生が必修 全員で報告会に臨む

食産業学部では、例年3年生が必修科目の「産業実習」の締めくくりとして、夏休み中にインターンシップに参加します。さらに、それぞれが自分の就業体験について報告書をまとめ、パワーポイントを使って発表することで体験を共有しています。

今年度も全国72か所の企業・事業所にご協力頂き、129人が無事インターンシップを終えて、9月27日、学科ごと5教室で報告会を開催しました。会場には、報告を聞きに来て下さった受入先企業の担当者や、来年のインターンシップを控えた2年生の姿もあり、充実した報告会となりました。12月からの就職活動に向けて、一人一人が職業観を養うことができたようです。

（学務課　遠藤優貴枝）

大和　事業構想学部 2年生を対象に職場体験の成果を発表

事業構想学部インターンシップ報告会及び意見交換会を、11月13日、宮城大学大和キャンパス講義室で開催しました。学生・教職員のほか、受け入れ先の企業・機関の方々にも出席いただき、120人以上が参加しました。

事業構想学部「インターンシップI」は、学部の2年生を対象とし、県内の企業を中心とした企業・機関における職場の体験を目的とした授業科目です。学生は4月から企業研究、ビジネスマナー講習といった準備をして、夏の企業・機関における研修に臨み、無事に研修を終えることができました。

報告会は二部形式で行われ、第一部では、代表学生による研修報告や、藤原正樹インターンシップ委員長による総括などが行われました。第二部では、懇親を兼ねた意見交換会が立食形式で行われました。学生は研修でお世話になった企業の方々への感謝の気持ちを込めておもてなしをし、会場は大変和やかな雰囲気に包まれていました。

今後は、インターンシップのより一層の内容の充実と質の向上を目指し、地元企業・機関との連携強化を進めてまいります。

（学務課　萩野俊輔）

和やかに行われた意見交換会

研修報告を聞く参加者

宮城大学後援会報 vol.42 | 平成26年1月31日発行 | 編集・発行 宮城大学後援会事務局

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
公立大学法人宮城大学 学務課学生支援グループ内
TEL：022（377）8381
FAX：022（377）8282
E-mail：kouenkai@myu.ac.jp
URL：http://www.myu.ac.jp/~kouenkai/

「教員からの一言」

実践力のある教育を目指して

看護学部教授　原田 光子

宮城大学では、社会のニーズに対応できる学生の育成を目指した教育を模索しています。

看護学部でも、少子高齢化の到来という社会のニーズに直面し、これに向けた教育の模索を続けています。

高齢化社会にあっては、高齢者の健康維持や療養者の支援による生活の質の向上が、重要なニーズになります。病院内の看護だけではなく自宅での長期療養生活等の支援により、人生をより豊かにしていくという重要な役割を担うことが求められています。

つまり、地域社会における長期療養生活を支援するシステム創造への貢献が看護職にも期待されています。このように、今後ますます看護職の活躍の場が拡大していくことになります。

一方、再生医療等、医療の分野における技術の進歩が加速しています。医療の進歩に従い看護の分野においても今までにない看護技術の習得が必要になってくると思います。社会が変化し、技術が進歩する中で、教育の役割は学生と共に新しい学問を創造することと考えています。

学生が専門的知識を自律して学ぶ力を育み、その力が実践へと応用できるように、学生一人一人が夢に向かって成長していけることを願っています。

保健室から

最近の傷の手当事情

すり傷や切り傷などのちょっとした怪我をした時、大抵の方は病院に行かずに自宅で手当てをされているのではないでしょうか。私が子供の頃は赤チンを塗って『ふうふう』と乾燥させたものでしたが、水銀化合物ということで使用されなくなり、その後はマキロンで消毒しガーゼを当てるといった処置が一般的になりました。

しかし、最近、今までのやり方が間違っていることが分かり、新しい創傷処置が行われ始めています。消毒薬は細菌を殺す役割がありますが、怪我を治す働きのある周りの細胞まで傷めつけてしまいます。また、傷口から滲み出る水（浸出液）には傷を治す為に必要な成分が含まれているのでガーゼを当てるとそれを吸い取り、治りが遅くなるのです。

では、実際にはどのように処置するのが正しいのでしょうか?

〈切り傷・すり傷の新しい治療法〉

①傷は水でよく洗う（消毒は厳禁）
②傷を乾燥させない。ガーゼは使わず、湿潤療法用被覆材（商品名キズパワーパット、リーダーハイドロ救急パッド等）や白色ワセリンを塗った食品用のラップを使用する
③かさぶたは作らない
④膿は水で洗い流し、また密閉する事を繰り返す（傷は乾くと痛む）

こうした処置の方が、傷が早く治ります。

1月から2月にかけてのこの時期は、道路の凍結の為に転倒したり、自転車・バイクのスリップ事故で怪我をする学生が来室することが多くなります。保健室では、新しい傷の手当について説明しながら、傷の手当を症状に応じて行っています。

（太白キャンパス保健指導員　山田まさみ）

平成26年度 後援会総会 東京エレクトロンホール宮城で開催

平成26年度後援会総会を開催いたします。議題は、平成25年度事業報告・決算報告、平成26年度事業計画・予算案などです。ご出席くださいますようご案内いたします。

なお、学外の会場での開催となりますので、お間違えのないようご注意ください。

日時：平成26年4月3日（木）
午後12時40分～午後1時30分（入学式終了後）
場所：東京エレクトロンホール宮城（県民会館）大ホール
仙台市青葉区国分町3-3-7
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

卒業生・修了生の保護者の皆様へ 卒業式のご案内

平成25年度宮城大学卒業証書・学位記授与式を挙行しますので、ご出席ください。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。

なお、式場内の座席数は限られています。満席となった場合は、別会場のモニターでご覧いただくことになりますのでご了承ください。式典の詳細は、1月中に大学ホームページに掲載します。（URL：http://www.myu.ac.jp）

日時：平成26年3月19日（水）
受付／午前9時開始
式典／午前10時～11時30分頃
場所：大和キャンパス講堂　　学務課☎022（377）8218

後援会 終身会員制度のご案内

後援会では保護者の方々が、学生の卒業後も宮城大学を支援する終身会員制度を設けています。

卒業生の保護者の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの方々に入会いただき、大学の精神的な支えとなっています。会員の方には年2回発行の会報及び主催事業の案内等を20年間送付致します。

大学間の生き残りをかけた競争が激化する中、自主自律の運営を目指す宮城大学を、更なる充実した支援で、物心両面から支えてまいりたいと考えております。

今年度卒業を予定されている保護者の皆さまには、改めて御案内いたしますので、何卒、制度の趣旨を御理解いただき、多くの方に御賛同いただきますようお願い致します。

（後援会事務局）

編集後記

今回、ご紹介した二つの学生団体は、社会貢献という目的意識をしっかり持って活動しています。震災から間もなく3年が経ちますが、震災を機に、学生一人ひとりの社会貢献への意識が育っていることを感じました。

今後も、地域へ、世界へと目を向けて活躍する学生の様子を、できるだけ多くお伝えしたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い致します。（S・I）